

福井県 あわら市の石仏②

旧芦原町の石仏

資料作成：滝本やすし(石川県金沢市)



北潟路傍 愛の神

北潟小学校区

- 01 北潟 路傍／愛の神
- 02 北潟 八雲神社／恵比須・大黒
- 03 波松 白鬚神社／船石祠、狛犬
- 04 赤尾 白山神社／神明神社石祠[六字明王]

芦原小学校区

- 05 牛山 神明神社／旧本殿石祠[雨宝童子三尊]
- 06 堀江十楽 神明神社／河濯神社石祠[観音]、虚空蔵菩薩
- 07 田中々 八幡宮／薬師如来

本荘小学校区

- 08 宮前 御前神社／西国三十三ヶ所観音石龕、神明神社石祠、相葉神社石祠
- 09 中番 曹洞宗龍雲寺／甘露門読経塔
- 10 中番 春日神社／井口神社石祠[不動明王、毘沙門天]
- 11 中番 白山神社／稻荷大明神石祠
- 12 下番 路傍／「馬頭観音」
- 13 谷畠 常盤神社／双体神像

01 北潟 路傍／愛の神

北潟湖畔の国道305号線から少し入った旧道沿いの路傍に清水が湧いている。清水の手前の案内板に、次のように書かれている。

・愛の神とお清水の由緒

往古よりここに清水が、滾々と湧き出し、村人は、命を育むこの水の恵みに感謝し、永禄八年(1565)、愛の神をお祀りした。愛の神は、「アイノカミ(饗の神)」といわれ、田の神、水の神で、夫婦神とされている。爾来氏神八雲神社の祭礼の前日に、この井戸水が祓い清められ、供物の米を蒸すなどに使われてきた。また、昭和二十三年の福井大震災の折も、濁ることなくゆたかに湧き出して、多くの人が、この清水に救われたという。

清水の裏には小堂が建てられており、男女並座の神像が奥壁に彫られた石室が納められている。石室前面の左右の柱には「奉建立愛乃御神石室／施主」「干時永禄八年(1565)五月吉日」と刻まれている。永禄8年は道祖神信仰の発祥に近い時期のものと考えられるのだが、同様の信仰がこの地にあったのだろうか。

越前地方の神社境内等に、1石に2体の神像が浮彫りされた石龕などが10基ほど確認される。そのほとんどは稚拙であり、男神であるか女神であるかを確認できない。しかし、あわら市北潟東路傍、あわら市谷畠常盤神社、坂井市坂井町島春日神社の3基は、はっきりと男神と女神であることが確認される。また銘文が確認されるのは、北潟路傍の1基のみである。



愛の神石室

02 北潟 八雲神社／恵比須・大黒

八雲神社の祭神は速須佐之男尊で、罔象女神と安徳天皇を合祀している。神仏習合時代には牛頭天王社(天王さん)と称していたが、神仏分離の際に八雲神社に改称された。拝殿の右手に、角型と各面に梵字が刻まれた六角型の石祠がみられる。他に3棟の境内社が建てられている。これらの内部には、木造薬師如来座像、木造天部立像、木造菩薩形立像、木造牛頭天王立像、石造恵比須大黒などが祀られている。



恵比須大黒

03 波松 白髯神社／船石祠、狛犬

白髯神社は、農業と漁業の神である塩土老翁神を祭神としている。拝殿の右手前に小堂が建てられ、4基の石祠と多数の小さな狛犬が納められている。堂の扉の上に「船石祠の謂れ、狛犬の謂れ」が掲げられている。これによると、4基の石祠は波松の4網元が漁の安全と豊漁の守り神として船小屋を見下ろす丘に建てられていたそうである。4基のうちの1基はほとんど倒壊しており、恵比須が浮彫りされた奥壁のみとなっている。また多数の小さな狛犬は波松の若衆が奉納したもので、もとは参道の石段に沿って並べられていたそうである。



上: 船石祠
下: 狛犬



04 赤尾 白山神社／神明神社石祠[六字明王]

白山神社本殿右手に笏谷石製の石祠が建てられている。前面に日月の窓が彫られており、奥壁内面に六字明王立像が浮彫りされている。六字明王は、六字尊、六字天、黒仏、黒六字などとも呼ばれ、真言密教における六観音の修法六字経法の本尊である。明王という名であるが、六観音(聖観音、千手観音、馬頭観音、十一面観音、准胝観音、如意輪観音)を1体で表した菩薩である。

旧坂井郡の西部では、天台宗と結びついた神明信仰では雨宝童子を御神体とし、真言宗と結びついた神明信仰では六字明王を御神体としているそうである。これにより雨宝童子がみられる地域では天台宗の勢力が強く、六字明王がみられる地域では真言宗の勢力が強かったことがうかがえる。六字明王はこれまでに旧芦原町、旧三国町、旧坂井町、旧春江町、福井市で計10体確認している。これらはいずれも浮彫りの石像であり、木像は1体も確認していない。分布地域が限られることや作例が石像のみであることなど謎が多い。



六字明王

05 牛山 神明神社／旧本殿石祠[雨宝童子三尊]

神明神社拝殿の右手前に、2基の石祠が建てられている。左の石祠は正面に日月の窓が開けられており、奥壁内面に三尊像が浮彫りされている。中央に大きく雨宝童子、向かって右に地蔵、左に春日赤童子である。雨宝童子三尊は、坂井市三国町池上の伊伎神社本殿内にも同様のものがみられる。赤童子は法相宗の護法童子で、春日大社境内の若宮社の祭神である天押雲根命の化身と伝えられる。その姿は制吨迦童子をモデルにしたと考えられている。神明を中心として、愛宕と春日を両脇に配したのであろうか。



雨宝童子三尊

06 堀江十楽 神明神社／河濯神社石祠[観音]、虚空蔵菩薩

神明神社境内には、本殿と直交して河濯神社が建てられている。河濯神社の祭神は不明であるが、内部にはいくつかの石造物が祀られている。中央に石祠があり、その前に一对の狛犬が配されている。その左に丸彫りの石像が、また右には「虚空蔵」と刻まれた石板がみられる。



虚空蔵菩薩と河濯神社石祠

石祠の柱に「寶永三丙戌稔(1706)霜月三十日／堀江十楽村／観音堂主覺山造立」と刻まれており、内部に聖観音立像が納められている。

左の石像は宝珠と剣を持っており、虚空蔵菩薩であろう。台座を含めた総高は57cmで、近年の作かと思われる。

河濯神は下の病・婦人病治癒のご利益があるとされ、近くの芦原温泉の湯女や温泉街遊郭の遊女たちによる信仰が厚かったという。

07 田中々 八幡宮／薬師如来

八幡宮は誉田別尊、伊弉册尊、曾保登神を祭神としている。境内社は加茂神社と住吉神社である。拝殿の右手に2基の石祠が建てられているので、これらがその境内社と思われる。右の石祠は奥壁に薬師如来座像が浮彫りされた石板が納められており、住吉神社の本地仏と思われる。また本殿内に十一面観音とみられる石造立像が祀られており、伊弉册尊の本地仏であろうか。



薬師如来

08 宮前 御前神社／西国三十三ヶ所観音石龕、神明神社石祠、相葉神社石祠

御前神社は天兒屋根命を主祭神とし、豊受神と伊弉册尊を合祀している。天兒屋根命は春日神であり、豊受神は合祀された稲荷神社の祭神、伊弉册尊は合祀された白山神社の祭神である。境内社は神明神社と相葉神社。

本殿の左手に、内壁に西国三十三ヶ所観音が彫られた笏谷石製の大きな石龕が建てられている。福井地震の時に倒壊したのであろうか、コンクリートで修復されている。『あわら市の文化財』に次のように記述されている。

西国三十三ヶ所観世音

所在地 宮前7-20 御前神社

指定年月日 平成5年5月26日

管理者 宮前公文区

西国三十三ヶ所観世音がある御前神社は、式内社と伝えられ、祭神が藤原氏の祖神であることから、昔この地にいた藤原系の氏族と関係があると見られるが、由緒ははっきりしない。

これが彫られた石龕は 凝灰岩に三十三ヶ所観世音と阿弥陀如来、更に源空上人と仏岩上人もまとめた浮彫の厨子で、建立は元禄8年(1695)である。

西国三十三ヶ所観世音の巡拝は、広い地域に一体毎に仏像が安置されているため、すべてを廻ることは昔の人には至難の行であった。そのためすべてを一つの石龕に刻みこんだこの厨子は、近郷近在のみならず広く参詣人を集め、信仰の対象となっていた。

この石龕は 凝灰岩に三十三ヶ所観世音と阿弥陀如来 それに源空上人 さらに仏岩上人とをまとめて彫刻した厨子であるために近郷近在を問わず 広く参詣人を集め信仰の対象としては例の少ないものである。

石龕の屋根の左右には鬼面が掲げられており、右の柱に「元禄八天(1695)乙亥八月廿日／敬白」、左の柱には「建立西国三十三番■…」と刻まれている。また左の柱には「昭和三十二年八月再建」と追刻されている。



西国三十三ヶ所観音石龕



石龕の内部

石龕の内壁3面には、各12体の尊像が浮彫りされている。これら36体の尊像のうちの33体は西国三十三ヶ所観音である。奥壁に如来形座像と11体の観音、左壁には地蔵立像と11体の観音、右壁にも地蔵立像と11体の観音が並んで彫られている。左壁の地蔵の脇に「源空上人」、右壁の地蔵の脇に「仏岩上人」、33体の観音の脇には一番から三十三番までの番号が刻まれている。源空上人は浄土宗の開祖法然上人であり、仏岩上人は浄土宗の念仏行者の播隆上人である。しかし石龕が建立された元禄8年には仏岩上人はまだ生まれていないので、尊像の脇に刻まれている尊名や観音の番号は後刻と考えられる。

拝殿と本殿の間には2基の石祠が並んでいる。稲荷神社と白山神社は明治40年に合祀されたが、その後分離されており、これらは神明神社と相葉神社である。

左の石祠の前面には日月の窓が開けられているが、内部には尊像を確認できない。日月の窓の下には年号が刻まれているのだが、「八月■日」を判読するのみである。また左右の柱には「大長池久圓／施主／三郎右衛門尉／■■■氏子」と刻まれている。左右の柱には、この他にもいくつかの文字が刻まれているのだが判読困難である。しかし「天長地久」の4文字が読み取れることから、この石祠は天照大神を祭神とする神明神社ではないかと考えられる。

右の石祠も前面に日月の窓が開けられており、奥壁の内面に尊像が浮彫りされている。宝冠を被って蓮華上に座し、左手に宝珠を持ち、右手は施無畏印である。観音であろうか。像の右に「正保二天(1645)」、左には「卯月吉日」と刻まれている。左の石祠が神明神社と考えられることから、こちらは相葉神社であろう。相葉神社の祭神名は不明である。

また拝殿のすぐ裏には「春日大明神」と刻まれた角型の石片が置かれている。もとの古い鳥居の額束であろう。

神社右手の林の中に、唐破風屋根付きの石塔が建てられている。正面に「熊野大権現／■山大権現」、左側面に「施主／三郎右衛門尉／敬白」、右側面に「貞享元年(1684)甲子八月吉日」と刻まれている。■山大権現は白山大権現であろうか。この石塔は神明神社の石祠と同じ施主名であることから、神明神社の石祠も同時期に建てられたのであろう。



相葉神社石祠奥壁の観音

09 中番 曹洞宗龍雲寺／甘露門読経塔

曹洞宗龍雲寺の墓地内に、右側面→正面→左側面に施餓鬼会で読まれる甘露門が刻まれた石塔が建てられている。正面中央下部に「有縁無縁三界万霊」および2名の戒名が刻まれている。裏面に「天保十四癸卯年(1843)四月吉日／施主北金津坂下／庄左衛門」と刻まれている。



左側面



正面



右側面

10 中番 春日神社／井口神社石祠[不動明王、毘沙門天]

春日神社拝殿の右手に、笏谷石製の石祠が建てられている。大ぶりの石祠で、屋根には置千木の装飾がみられる。旧式内社井口神社の本殿石祠であり、男大述命(継体天皇)が祭神として祀られている。石祠の左側面に「享保七壬寅年(1722)十一月廿一■／破損再建／■番村／■■■」と刻まれ、さらに「大正十五年(1926)四月下旬修築／社務所」と追刻されている。奥壁内面に、不動明王立像と毘沙門天立像が並んで浮彫りされている。



井口神社本殿石祠



不動明王と毘沙門天

11 中番 白山神社／稲荷大明神石祠

白山神社拝殿の左手に稲荷神社が建てられており、円柱型の石祠が納められている。屋根も円形であるが、正面の扉は平板である。扉上部に日月の窓が開けられており、その下に「稲荷大明神／堂守」、右に「元禄二己巳年(1689)三月吉日」、左に「中番村／甚右エ門造之」と刻まれている。



稲荷大明神石祠

12 下番 路傍／「馬頭観音」

下番集落外れの路傍に地蔵が納められた小堂が建てられており、その脇に「馬頭観音」と刻まれた角柱型の石塔が建てられている。「明治■年」と刻まれており、明治初頭の造立と考えられるが、伝承などは不明である。



「馬頭観音」

13 谷畠 常盤神社／双体神像

常盤神社拝殿の右手に観音宮の石祠が建てられており、その左に双体神像が置かれている。越前地方の神社の境内等には、1石に2体の神像が浮彫りされた石龕などが10基ほど確認される。そのほとんどは稚拙であり、男神であるか女神であるかを確認できない。



双体神像